

パネル発表「園児の家庭での飼育状況と幼稚園における動物体験」

井口真美

長年生きたウサギが1年半前に、続けてモルモットも1年前に死んでしまい、当時5歳児の子どもたち（現1年生）は2度の動物の死に出会うことになってしまった。また私たち教職員も、ウサギの治療に関しては頻りに動物病院に通い、精神的にも金銭的にもかなり負担になり、飼育に対する自信を失いつつあった。

決して自然に恵まれた環境とは言えない地域だけに、幼稚園で様々な動物に触れる機会を設けてあげたいと願う保育者としての想いは強い。しかし、幼稚園の現状から考え、まずは1匹の小動物を、子どもたちと一緒に丁寧に飼うところから再スタートを図ろうと考えた。

1 ペットショップの店長さんの指導を受ける

店長さんと、事前に打ち合わせを行った。餌はペレットを中心とし、野菜・果物類は少なめでよいこと、キャベツは腸で発酵しやすいので避けること等、私たちが誤った知識をもっていたことにも気づかされた。

当日は、店長さんの優しい語り口や、イラスト付の分かりやすい説明で、子どもは真剣に話を聞いていた。また、子どもの質問に対しても、とても丁寧に答えていただいた。「人の病気がうつらないように、抱く時にはきれいな手でね」等、終始モルモットの立場で話す姿勢に、ついつい教育的効果を優先させがちな私たちは、はっとさせられる思いがした。

更に、ケージの置き場、餌の量等、実際に飼育している状態を見ていただき、モルモットが安心できる小部屋をおいた方がよいこと等をアドバイスしてもらった。



幼稚園の飼育で期待すること(複数回答)
(回答数：5歳児33名中32名)

2 アレルギーのある子に対して

5歳児クラス33名中で、動物アレルギーとの申し出があった子どもは3名である。

3名とも現在までアレルギー症状が出たことはなく、保護者も、ほぼ問題ないと判断し、現在は、他の子と同様に当番を行っている。

動物アレルギーを持つ場合、子どもの症状を十分把握した上で、保護者の希望を大切にしている。まずは、保護者が付き合いの様子を見る等、無理のない関わり方からスタートし、保護者に安心してもらうことから始めている。

そして、保護者とこまめに連絡を取り合いながら、飼育活動に参加できる部分をできるだけ増やすようにする。

3 飼育に関するアンケート

5歳児の保護者に対し、アンケート調査を行った。

ここでは、家庭での動物飼育の実態調査、生き物を飼うことの問題点・よさ、幼稚園での飼育に期待すること、問題点等についてたずね、家庭における飼育の実態把握や、園に対する保護者のニーズを探り、園での飼育を見直す機会とした。

各家庭にアンケート用紙を配付し回答を得た。時期は、夏休みの親子動物当番を終えた9月当初に行うことにした。家庭での飼育経験や、飼育動物への関心の持ち方に性差があるのではないかと考え、男女の別のみたずねた。

(回答数 5歳児33名中32名；無記名回答)

<家庭での飼育に関して>

▲飼ってみたい生き物

- ・犬 (11名；男3, 女8)
- ・ハムスター等の小動物 (5名；男2, 女3)
- ・特になし (12名；男7, 女5)

▲飼い始めた理由

- ・子どもの希望 (16名中8名)
- ・「もらった」「見つけた」等、偶然の理由によるものも多い
- ・病気の祖父のセラピー犬として (1名)

<家庭での飼育の問題点・よい点>

▲問題点

- ・弱ったり死んでしまったりする (9名)
- ・経費がかかる (5名)
- *生き物を飼わない理由
マンションのため飼えない (16名中7名)

▲よい点

- ・動物への関心が高まる (16名)
- ・育てることの大変さが実感できる (12名)
- ・命の大切さがわかる (9名)
- ・思いやりが育つ (9名)

<飼育や当番に関して(自由記述)>

- ・前のモルモットの死について、子どもたちな

りに受け止め、心を痛めている。(「このお墓に寝てるんだよ」「一人で寂しくないかな」等)

- ・「当番活動を通して、今のきゅんちゃんに愛着を感じているようだ。」
- ・「園での飼育は(誰かがやってくれると)家庭より甘えがあるのでは?生き物を一人でじっくり飼う経験があってもよいのでは。」
- ・「きゅんちゃんが死んで、一時はお墓を見て手を合わせていましたが、今では忘れていく様です。もっと命の大切さを学んでほしいと思いました。」

<家庭における飼育状況(男女各17名)>

	犬	ネコ	魚類	カメ	ザリガニ	カニ	クワガタ	クワガタ	カブトムシ	カブトムシ	ゲンゴロウ	スズムシ	のべ人数	何も飼っていない
男	2	1	3	0	3	3	3	2	4	1	1	1	24	5
女	1	0	3	1	1	0	0	0	1	0	0	0	7	10

<幼稚園の飼育での問題点>

- ・もっといろいろな生き物を飼ってほしい (鳥1, ウサギ3)
- ・アレルギーをもっており、衛生上不安がある
- ・当番が義務になっているのでは?

4 当番への取り組み

子どもたちは、飼育当番(全員で輪番制)をととても楽しみにして行っている。お弁当後に、保育者に見守られながら、ケージのトレイを洗う、トレイの新聞紙を取り替える、餌や水をあげる等の活動を、友達と一緒にしている。ゆとりをもって飼育に関われる保育者がいることで、子どもたちも丁寧に世話をすることが保証されていると感じる。

現在、モルモットが好きなニンジン、小松菜を、当番場所のすぐ脇で育てている。

5 まとめ

今回のアンケートは、家庭での様子や幼稚園の飼育に期待することがわかり、有意義な調査となった。家庭での様子についても、予想以上に生き物(特にほ乳類)を飼う経験が少ないことがわかった。また、飼育当番や飼育動物の死の経験から「命の大切さ」「世話をすることの大変さ」を感じてほしいと願う気持ちが強い。

また、ペットショップの店長さんとの山会いを通し、動物の立場になって世話をすることの大切さを実感した。

また、動物と向き合う気持ちのゆとりをもつことで、子どもにも飼育を通して思いやりの気持ちを育むことができると感じた。

(東京学芸大学附属幼稚園竹早園舎教諭)